



ソーシャル・コミュニケーションをコンセプトに

設立10周年

記念事業



21世紀がスタートした年に、静岡県広告協会は、設立10周年を迎えることができました。この記念すべき節目に、10年間の足跡を検証しながら未来への展望を試みようとして、平成13年度は、いろいろな記念事業を展開してまいりました。

企画・実施に当たっては、会員の中から事業ごとの実行委員会を組織し、討議を重ねながら実りある成果をめざしました。



記念式典とパーティ

H13
10・10 WED
ホテルセンチュリー静岡

プログラム

- 開式のことば 福嶋甫定理事長
- 会長あいさつ 松井 純会長
- 来賓祝辞 石川嘉延県知事
小嶋善吉静岡市長
稲葉瑞穂全広連専務理事
- 功労者表彰 7名
- 「私と広告」感想文 入賞者4名
コンクール表彰
- 静岡県CMグランプリ表彰 ラジオ部門6作品
テレビ部門8作品
- 閉式のことば 宮城島安宏実行委員長



心新たな結束と広告文化を通じて 地域社会への貢献を誓う

静岡県広告協会は、平成13年10月10日（水）設立10周年記念式典を静岡市のホテルセンチュリー静岡で開催しました。

来賓には、石川嘉延静岡県知事、小嶋善吉静岡市長、神谷聡一郎県商工会議所連合会会長、そして東京の全広連より稲葉瑞穂専務理事をお迎えすることができました。

式典では、当協会の設立や発展に多大な尽

力を賜った功労者7名の表彰と、10周年記念事業として実施した「私と広告」感想文コンクールの入選作表彰、そして、当協会の自主企画で毎年開催されている静岡県CMグランプリの第5回入賞作品表彰式が行われました。

式典への出席は、会員および関係者ら約250名を数える盛況さで、10周年に見事大輪の花を咲かせることができました。

会長あいさつ
静岡県広告協会
会長 松井 純



10年にわたる皆さま方よりの熱いご支援に深く感謝申し上げます。広告協会は、日本全国各都道府県に設立されております。静岡県は平成3年と、やや遅れてのスタートでしたが、ここに10年の歳月と実績を重ねひとつの区切りをつけることができました。

広告は、モノを売る時代から、情報を読者や視聴者に伝えることになりました。広告産業は情報社会の牽引車の役割りを果たしています。皆さま方、広告にもっともっと目を見開いて下さい。

来賓祝辞
石川嘉延静岡県知事



設立10周年、まことにおめでとうございます。広告活動は、地域経済の活力度、活性度を示すバロメーターです。静岡県広告協会は全国有数の規模を誇るといいますがそれは静岡県の経済・産業の力を裏書きしていると思います、うれしく思います。

何事も、「10年一区切り」と申しますが、いよいよ基礎が定まって、ますます隆々発展を示唆しています。今後20年、30年に向けてのご発展を心から祈念いたします。

スピーチから

来賓祝辞
小嶋善吉静岡市長



10周年は、ひとつの区切りとして心からお祝い申し上げます。

我々行政も、結構膨大な情報を持っていますし、また集まる機関です。皆さんのお力をお借りして、的確に多くの市民県民に情報を知ってもらうご指導をお願いしたいと願っております。

今後も広告業界の皆さんが、お互い切磋琢磨して、少しでも社会に貢献できるノウハウを広告協会で築き上げて下さい。

皆さんの社業の発展が県民の幸せにつながっています。ご期待申し上げます。

来賓祝辞

稲葉瑞穂全広連専務理事
(鈴木三郎助全広連理事長代理)



この10年、広告界を取り巻く環境は大きく変化しています。特に情報・通信の急速な発展は、メディアの多様化となり広告形態も日々様変わりを見せています。

生活者もまた、パソコンの浸透などを要因に、より一層多様化・個性化が進み広告との接し方が大きく変化しています。

こうした状況の中、我々広告関係者は受け手にわかりやすく、信頼され、そして価値のあるメッセージを送り続けていくことが大事なことと考えます。

地元社会の発展と広告文化向上のためさらなる積極的な活動を期待します。

功労者表彰

ご苦労さま。
そしてありがとう。



静岡県広告協会は、平成3年9月26日に、全日本広告連盟36番目の地域広告協会として設立されました。スタートこそ他地域に遅れをとりましたが、その規模は419社、480名という会員数で東京広告協会に次いで全広連2番目という注目の誕生でした。そして、5年後の平成8年には、第44回全広連静岡大会を主管。全国から1,200名の参加者を集め、活力ある静岡パワーの真価をいかんなく発揮しています。

そして10年の歴史——静岡県広告協会の今日あるのは、発足当時、並々ならぬ情熱と努力で生みの苦しみと喜びをプロデュースしてこられた発起人の方々と、誕生間もない幼児を育てはぐくんでこられた歴代理事長の舵取りというご苦労があったからです。

設立10周年の記念式典を開催するに際し、先人が築いてこられた実績と功績を称え、その功労を表彰して感謝の意を表しました。

功労者表彰の人選につきましては、10周年記念事業委員会のメンバーで、次の7名の方とさせていただきました。

功労者表彰ご芳名 7名

- 発起人
井上光一氏 静岡県中小企業団体中央会会長
川井祐一氏 静岡鉄道株式会社取締役社長
杉山精作氏 株式会社大和企画社取締役会長
中野日出夫氏 社団法人静岡県屋外広告協会会長

- 発起人兼初代会長
故・大石益光氏 静岡新聞社社長
SBS静岡放送会長

※なお、表彰は奥様の大石温子様にご出席いただきました

- 初代理事長
花崎治夫氏

- 二代目理事長
谷澤 清氏

功労者を代表してのご挨拶

井上光一氏

表彰いただきました方々を代表して、一言お礼を申し述べます。突然の受賞で大変感動しています。広告の重要性、重大性、有効性というまでもありませんがこの業界の前進、進歩は行くところなきまで発展していくのではないのでしょうか。

私ももう85歳になりますけれど、まだまだ元気でいれば楽しい社会が結構存在するんだと、こんな感じで今日の表彰を受けさせていただきました。

今後、静岡県広告協会のますますの発展を陰ながらお祈りいたします。

感想文入賞作品表彰式

応募数は123作品
特賞1編、入賞3編の表彰式

設立10周年に記念事業のひとつとして実施した「私と広告」感想文コンクールは123編のご応募をいただきました。その中から選ばれ特賞1名と、入賞者3名の表彰式が式典の中で取り行われました。

- ・テーマ／「私と広告」
- ・応募資格／静岡県内に居住、または通勤・通学の高校生以上の方
- ・応募要項／400字詰め原稿用紙5枚以内
- ・応募期間／平成13年5月1日～6月30日

公募の経過

2000年

4月12日

理事会で記念事業実行委員会創設

5月24日

記念事業実行委員会で事業決定

2001年

5月、6月

新聞、テレビ、ラジオで作品募集の実施

応募と選考結果

応募総数 123編

一次審査 8月7日 31編を選考

最終審査 8月21日 選考委員4名で特賞1編、入賞3編、佳作10編を選考。

なお、詳細は、別項目で記載してありますので参考にしてください。



CMグランプリ表彰式



——テレビCMグランプリは“チェンジ伊豆2000！”——

平成12年4月から13年3月まで1年間に県内で放送されたラジオ・テレビのCMの中から選んで表彰する「静岡県CMグランプリ」も、本年度で第5回目を迎えました。

本年度の応募数は、ラジオ部門24本、テレビ部門83本。その中から、審査委員長にコラムニストの天野祐吉氏を迎え、広告業界や視聴者代表、学識者など20名の審査員による審査を経て、下記の企業が2001年第5回静岡県CMグランプリの入賞の栄に輝きました。

■ラジオ部門

最優秀賞 静岡トヨペット(株)

優秀賞 キリンビール(株)静岡支社
(株)アルバイトタイムス
静岡三菱自動車販売(株)
(株)ミサワホーム静岡
(株)竹茗堂茶店

■テレビ部門

最優秀賞 静岡県(伊豆の観光キャンペーン)

優秀賞 日新観光(株)(パチンココンコルド)
(株)ザ・トーカイ(ADSL)
ユニー(株)(アピタバザール)
東海農産(株)(じゃりまめ)
静岡ガス(株)(ガス温水床暖房)
(社)静岡県観光協会(大型観光キャンペーン)
ダイドードリンコ(株)(ヤンロン茶)

周年記念講演会

設立10周年を記念しての事業は、まず5月8日(火)の記念講演会からスタートを切りました。一般公開とした記念講演会は、JR静岡駅前のホテルアソシア静岡ターミナルを会場に、400人の聴講者が集いました。

講師には、京大経済研究所教授・佐和隆光氏をお招きして、「21世紀、日本経済は何処へ行く」と題しての講演でした。



テーマ 「21世紀、日本経済は 何処へ行く―」

京都大学経済研究所
教授 佐和隆光

現在日本の経済社会は、工業化社会からポスト工業化社会への移行期に差し掛かっている。ポスト工業化社会とは現在のアメリカを見れば分かる。製造業が高度情報化技術(IT)を採り入れて、生産プロセスと経営プロセスを抜本的に改編し、GEやIBMのように見事によみがえる。また、もともと元気だった金融・通信・映画・情報などソフトウェア産業が経済の中枢部に躍り出る。

画一教育・終身雇用・年功序列・系列取引に代表される日本型システムは、工業化社会向きに「最適」であるが、ポスト工業化社会向きには「最不適」である。そのためにも今改革を断行してポスト工

H13

5・8 TUE

ホテルアソシア静岡ターミナル

業化社会への階段をのぼらねばならない。

21世紀の最初の10年間はいかなるシステムが最適か。今からアメリカの真似をしても間に合わず、新しいシステムの構築が求められる。日本の構造改革はどこを変えるか。その過程で流れる血にどう対処するか。

英国のサッチャー政権は市場主義改革を推進し、規制緩和と国営企業の民営化を断行した。その結果、発生した負の部分は、失業の増大・所得格差の広がり・公的教育と医療水準の低下であった。98年5月、英国選挙民は「ノー」の判定をくだし、失業対策と教育重視をかかげる労働党ブレア政権の「第三の道」を選んだ。

日本はサッチャリズムの轍を踏むべきではない。経済構造改革に伴う高コスト構造の是正は失業と倒産をもたらす。政府は所得格差と失業者の増加に備えるべきである。

日本経済の再生のためには「ポスト工業化社会の速やかな移行」を果たさなければならない。そのためには、市場主義改革と、「第三の道」改革の同時遂行が不可欠である。

講師プロフィール

昭和17年 和歌山県高野山生まれ
昭和40年 東京大学経済学部卒
昭和44年 京都大学経済研究所助教授
昭和45年 スタンフォード大学研究員
昭和50年 イリノイ大学客員教授
昭和55年 京都大学経済研究所教授
平成7年 環境経済・政策学会会長
国民生活審議会・中央環境審議会・
運輸政策審議会の各委員を併任

西部地区記念講演会



西部地区での記念講演会は6月14日(木)、世界の軽自動車の雄、スズキ(株)会長の鈴木修氏をお迎えして、「企業経営と国際化について」を演題に、浜松市の浜松フォルテホールで開催されました。

聴講者は、351人(一般245人、当協会会員106人)の多くを数えました。

“やрмаいか精神”がたぎる浜松人気質が会場いっぱいに広がる熱のこもった講演会になりました。

テーマ 「企業経営と 国際化について」

スズキ株式会社
会長 鈴木修

スズキ株式会社はオートバイから自動車産業に進出したのはビリだったので、日本では一番になれそうにない。だが、どんな小さな国でもいいから一位になろうと思い、どのメーカーも行っていない所にいけば一位になれると考え78年にパキスタンに進出した。

発展途上国では、道路、電話、水、電気等のインフラが整備されておらず、先進国に比べて百倍の苦しみを味わった。その後、インド、ハンガリー、ベトナム等に進出し、現在は三十数カ国に57工場がある。

発展途上国の皆さまに、われわれができ

H13

6・14 THUR

浜松フォルテホール

ることは経済支援だ。先ず出掛けて行って、その人たちの生活を見ながら、そこで物を作ることによって、お互いに繁栄する。

国際化とは、地球規模の標準で地球規模のルールでビジネスすることが必要だ。

自動車産業は格闘技と言われているが、倒されないように皆さんとご一緒に戦っていきたい。

講師プロフィール

「小さなクルマ、大きな未来」。そのスズキの躍進の原動力となっているのが、昨年社長から会長へ昇格し、ますます意気盛んな鈴木修会長です。78年に4代目社長に就任後は79年の「アルト」、93年の「ワゴンR」など、軽自動車のヒット商品を世に送り出した。1958年当時、年商30億円であった鈴木自動車を、世界的な視野に立ち、ぐいぐい引っ張って現在の1兆6000億円の自動車メーカーに育てあげました。

昭和33年 鈴木自動車工業株式会社入社
昭和38年 取締役就任
昭和42年 常務取締役就任
昭和48年 専務取締役就任
昭和53年 取締役社長就任
平成12年 取締役会長(CEO)就任
平成2年 スズキ株式会社に社名変更
現在に至る

そして現在は
(財)静岡国際園芸博覧会協会会長
(社)静岡県国際経済振興会会長
スズキ(株)代表取締役会長

からくり時計の寄贈

H13
9・26 WED
JR静岡駅

永遠の“時”を刻んで

静岡県広告協会は、広く県民とのかかわりが持てる公益事業として、10周年を記念に、JR静岡駅のコンコースに、ミネラル・サウンド・クロック——人形による実音演奏を可能にした“からくり時計”を寄贈しました。この時計が、末長く県民に親しまれ、静岡駅のシンボルとして愛されることを願うものです。



伴奏はロンドンフィルハーモニー

「時」は私達の生活に大きな関わりを持っています。時に対する考え方、創る人の思い、使う人の思いは様々です。

このミネラルサウンドは、音にこだわり、生活の中に「潤いと、安らぎ」を与えてくれます。演奏は14本の棒鈴を人形がたたいてメロディーを奏でます。バックの伴奏はロンドンフィルハーモニー管弦楽団に演奏を依頼し、純正律で収録されたものです。

馴染みの深い世界の名曲が“時”を奏でます。

ミネラルサウンド設定曲リスト

時報時刻	曲名
7:00	燦(さん) Brightness
8:00	歓びの歌
9:00	燦(さん) Brightness
10:00	ケルト幻影
11:00	メヌエット
12:00	歓びの歌
13:00	グリーン・スリーブス
14:00	ロッホ・ローモント
15:00	グリーン・スリーブス
16:00	ロッホ・ローモント
17:00	埴生の宿
18:00	ブラームスの子守歌
19:00	故郷
20:00	故郷

感想文コンクール

H13
募集期間 5月～6月
発表 9月5日

くらしの中の広告に語りかけてください

さまざまな情報が、私たちの生活をサポートしています。中でも広告は最も身近な存在として大きな役割を果たしています。「あなたは日頃、どのように広告と接していますか？」—こんな問いかけで、広く県民から感想文を募集しました。これもソーシャル・コミュニケーションをコンセプトとする10周年記念事業の大切なメニューです。



テレビのCM

入賞作品一覧

- 〈特賞〉
「本になった二つの広告」
荒木 秀子(自営業・熱海市)
- 〈入賞〉
「私と広告」 吉野 台二(無職・浜松市)
「私と広告」 近藤 康子(主婦・静岡市)
「私と広告」 阿部 英子(主婦・磐田市)
- 〈佳作〉
「私と広告」 西島ひろみ(主婦・三島市)
「思い出と感想」 芹澤とよ(主婦・清水市)
「私と広告」 鈴木富江(洋裁師・長泉町)
「私達の生活と広告の魅力」 村田秀吉(教員・吉田町)
「私と広告」 小林有里(主婦・静岡市)
「感動への結びつき」 倉前 弘(無職・静岡市)
「私と広告」 加藤 彩(高校生・焼津市)
「私と広告」 石原三幸(主婦・静岡市)
「折込み広告と私」 田沼まち子(主婦・吉田町)
- 「うまいはずです！」 鴨川典子(自営業・浜岡町)
- 以上14編は、「作品集」として2001年10月に刊行されました。



告知 新聞広告

寄せられた大事な感想を 広告文化に反映させます

応募作品は、高校生から米寿を迎えられた人生経験豊かな高齢者と幅広い年代層に及び、応募総数は123編を数えることができました。

広告に寄せられた様々なご意見、ご批判、これら消費者の声を謙虚に受け止め、静岡県広告協会は広告文化の向上と地域産業経済の発展に寄与していきます。

作品の選考に当たりましては、123編より第一次審査で31編を選び、第二次審査は、選考委4名で、特賞1編、入賞3編、佳作10編を選出しました。



ゴルフ大会

H13

5・23 WED

富士見ヶ丘カントリークラブ

雨にも負けず 親睦と“技”を競う。

例年と一味ちがうゴルフコンペが5月23日、富士山を望む清水市の富士見ヶ丘カントリークラブで、静岡県広告協会設立10周年記念と銘打って開催されました。

参加いただいた会員は45人（このうちプレーは44人）、記念事業の華やいだ雰囲気の中、プレーの技と併わせて、お互いの情報交換と親睦を深める絶好の機会ともなりました。ただ、残念なことに、当日は雨の中での決行となりました。



優勝は、北澤さんでした。

コンペの結果は次の通りです

優勝	北澤惇夫(静清興発)
準優勝	曾根正弘(テレビ静岡)
3位	笹井輝雄(静岡朝日テレビ)
バスグロ	鈴木正久(日本ヘルスメイト)

設立10周年記念事業実行委員会

委員長 宮城島安宏(静岡新聞社)

1 記念講演会

○松下 陸朗(テレビ静岡)

池田 泰秀(東海情報)

犬上 猛(アドトラスト)

大川 智(K-MIX)

長谷川 禎(中日新聞社東海本社)

2 記念ゴルフ会

○清水 伸一(博報堂)

大川 智(K-MIX)

3 「私と広告」感想文コンクール

○周布 兼和(電通東日本)

法月 正光(電通東日本)

島崎 征郎(静岡朝日テレビ)

長谷川 禎(中日新聞社東海本社)

4 公益記念事業(からくり時計の寄贈)

○松下 陸朗(テレビ静岡)

木村 二郎(中部電力)

5 記念式典

○島崎 征郎(静岡朝日テレビ)

武田 仁(西日本電信電話)

稲葉 卓(西日本電信電話)

清水 伸一(博報堂)

神田 敏明(静岡新聞社)

秋山 努(静岡放送)

芳澤 洋州(広告協会)

○印は、各部会の部会長